

平成28年度第2回倉敷市スポーツ推進審議会 議事録

日時 平成29年1月25日（水）15時00分～16時40分

会場 倉敷市庁舎3階 議会第2会議室

出席者 審議会委員：松井会長・向井副会長・長尾委員・松原委員・森委員・
安田委員・矢田貝委員

事務局：藤原局長・原田部長・北島課長・山本課長主幹・爲房主任・
吉原主事・渡邊主事

教育委員会：寺山主幹

傍聴者 0名

1 開会

開会あいさつ 倉敷市スポーツ推進審議会 会長 松井 守

2 議事

審議事項第1号 平成28年倉敷市体育章体育章候補者の選考・推薦について
(第1～19頁)

事務局から体育章の概要及び受章候補者(計36名)について資料を基に説明。

⇒原案どおり承認。受章候補者については会議後に市長へ推薦を行う。

審議事項第2号 倉敷市スポーツ振興基本計画(平成28年度事業)について
事務局から説明。以下説明事項の要点を記す。

・会議スケジュールについて(第20頁)

資料を基に会議の開催実績, 予定を説明。

・計画の広報について(第21頁)

資料を基にFMくらしきでのラジオ広報の実績, 予定を説明。

- ・市民モニターアンケート及び倉敷市スポーツアンケートについて
(第22頁～25頁, 別添)

第22頁を基に市民モニターアンケートの実施予定と倉敷市スポーツアンケートの実施期間を説明。

別添を基に回答実績や全15問の質問項目に対する集計結果を提示。

第23頁～25頁を基に「する」「みる」「支える」の部分に対する集計結果と事務局感想を説明。また、特に注目した質問項目ということでスポーツの情報提供と機関・役職等について触れ、「Kurashiki Sports Navi」, 「Spo サポ」, 「スポーツ推進委員」, 「総合型地域スポーツクラブ」の認知度の低さについて言及。認知度については、今回アンケートを取って初めて分かったことであり、課題として認識することとなったが、これを新たな気づきを捉え、2月に行う市民モニターアンケートの結果も踏まえ、今後審議会や計画推進部会で議論していきたいと説明。

- ・進行管理票【平成28年度】について(第26頁～28頁, 資料3)

資料3を基に、7月の第1回審議会では33事業ある進行管理事業のうち、今年度は[5 健康スポーツ教室の開催], [25 総合型地域スポーツクラブの充実], [31 倉敷市スポーツ情報サイト「Kurashiki Sports Navi」の充実], [33 地域スポーツ活動支援センターの設置・充実]の4事業について重点的に議論するとしたことを確認。その中で、今年度については最終的に[31]と[25]の2事業について議論したと説明。

第26頁を基に、「Kurashiki Sports Navi」への計画推進部会の関わり方として、部会の構成団体からのサイト周知、団体登録の斡旋、情報の充実に努め、サイトの価値を上げるよう努めると部会で議論したことを説明。

第27頁～28頁を基に、総合型地域スポーツクラブについて、市内3クラブとスポーツ振興課で「倉敷市総合型地域スポーツクラブ連絡会」の立ち上げたこと、クラブ代表者に計画推進部会に2回出席し議論に参加してもらったこと、スポーツライフ'91天城の市民企画提案事業「ハートフルスポーツの集い」に部会が協力していくことを部会で決定したことを説明。また、3月中旬

に開催予定の「倉敷市スポーツ推進会議」へクラブ連絡会から代表として天城の葭野事務局長に出席してもらいたいのので審議会の意見を伺いたいと説明。

資料3を基に、進行管理票の様式の下部に「倉敷市スポーツ推進審議会評価（第2次評価）の欄があり、各事業の担当が行った自己評価（第1次評価）の後に審議会委員に評価してもらう必要がある。その欄には数字による4段階評定と評価コメントが必要となる。ただし、33事業の進行管理事業全てを委員に見てもらうのは難しいと考えるため、今年度重点的に議論した〔31 倉敷市スポーツ情報サイト「Kurashiki Sports Navi」の充実〕と〔25 総合型地域スポーツクラブの充実〕の2項目の評価をしてもらいたい。進行管理票については、現在中間報告となっているので、平成28年度が終了し、最終報告が出来上がった後に、来年度の審議会の際に委員全員の評価をもらいたいと説明。

【出席者意見（抜粋）】

松井会長：倉敷市スポーツアンケートについてだが、ここまでスポーツに関する情報機関の認知度が低いとは思わなかった。また、その回答者が市職員やスポーツ関係者ということで、そこに対してもまだ周知ができていない。平成23年度から始まったこの計画も丸6年が経っている。どうして周知ができていないのか、どういった周知が必要なのか。本日は様々な分野から委員として出席してもらっているのでも、色々な忌憚のない意見を聞いてみたい。

向井副会長，〔「スポーツ推進委員」を知っていますか？〕という問いがあるが、認知度はかなり低い。推進委員は地域スポーツの担い手として、行政との架け橋といった役割もありと思うが、その辺り、どう考えているか。

向井副会長：市職員もそうであるし、スポーツ関係者の認知度も低い。各小学校区に2人居る中で、なぜアピールできていないのか。ただ、我々も頑張って活動している。情けない部分もあるが、また一般のアンケートの結果も聞いてみたい。

松井会長：松原委員，[スポーツ活動サポートセンター（Spo サポ）を利用したことがありますか？]の問で，知らないと回答した方が過半数を超えている。事業団も頑張っていると思うが，どう考えているか。

松原委員：数字的にはこういったところではないかと思っている。「スポーツ推進委員」についても，市職員の認知度は15%ほど，スポーツ関係者も25%ほどと，長くやってもなかなか難しい。「Spo サポ」について，認知の率は低いかもしれないが，市職員でも逆に知っている人は230人居るということで，ある程度は周知できていると感じる。周知の方法としては，公用車に「Spo サポ」と書いたシールを貼り，市内を走っていたりしている。また，広報誌の教室等の申込先にも掲載していたりということで，市民に対し周知を図っている。教室等の窓口が「Spo サポ」という機関であるということは，徐々に広がっているのではないかと思う。今後も継続していくことで周知を図れていくと思うので，現時点では良い成果が出ていると感じる。

松井会長：矢田貝委員，以前の審議会でもアンケートということについて言及されていたが，今回のこのアンケートについて，全体的にどう感じたか。

矢田貝委員：回答の内容自体はあまり良い結果が出たものではなかったが，知らなかった人も，このアンケートを見て知ったり調べたりすることがあるだろうから，意味は大いにあったと思う。その中で，「スポーツ推進委員」については，学区で2人居て活動しているが，それだけでは周知が難しいのかもしれない。学生や地域を巻き込んでボランティアという中での「支える」スポーツとしての部分が強調できれば，その役割も認知されるのかもしれない。

松井会長：長尾委員，「支える」スポーツの話が出たが，県にはボランティアバンクのシステムがあると思うが。（おかやまマラソンを例に挙げ）

長尾委員：現場から離れているため、今はどうなっているか分からない。以前は確かにボランティア登録はあった。

松井会長：倉敷市の計画の中の「支える」の部分として、以前ボランティア登録制度について話したような記憶がある。倉敷市にはそういった制度があるのか。

事務局：審議会の中で、倉敷市にも「瀬戸内倉敷ツーデーマーチ」や「倉敷国際（北島課長）トライアスロン大会」があり、そのボランティアを集めるにあたり登録制度を設けてはといった意見をもらったことがあった。その中で、事務局とすれば、ボランティアの育成といったところをテーマとし、研究させてもらっているところである。

松井会長：ボランティアの育成という部分では、岡山県体協でもそうだが、2020年に向け、スポーツの価値が高まっていく中で、スポーツを「する」ことができなくてもボランティアとして「支える」ことで、トップアスリートと触れ合えるといったことを進めていきたいと思っている。また、倉敷市については、大学が多くあるし、全国大会を誘致したりする中で、産官学の推進のように、もっと大学を多く活用すれば良いと思う。そういった分野を活用することも、スポーツ振興基本計画に反映できる。

安田委員、健康寿命の延伸ということが常々言われ、健康に老いることが大切であり、スポーツができるイコール健康なんだということであるが、高齢者のスポーツといったことで、今後どういった行政と地域との取り組みを望むか。

安田委員：グラウンドゴルフやペタンクの大会を地区の老人会の持ち回りでしているが、なかなか場所がない。また、ルールを知らなかったりローカルルールの統一が図れず困っている。そういった部分のサポートを求める。また、健康のためにスポーツをするにあたり、数年前に「市民あるく日」

の表彰制度について要望し、皆勤年数の表彰を小分けにしてもらったが、そういった目標を作ってもらうことも、運動するモチベーションに繋がると思う。

松井会長：健康に老いるということは永遠のテーマであると思う。こういった分野は行政では保健福祉のことになるのかもしれないが、そういった部分もまとめ上げていくのがスポーツ振興基本計画であり、それを見ていくのが事務局であるスポーツ振興課であるため、引き続きお願いしたい。

森委員、計画では競技スポーツ、生涯スポーツともに発信していく中で、市議会として議員や市の局長、部長等と一緒にアピールするようなことはできるのか。国や県は議員連盟を結成し、東京五輪に向けて取り組みをしていると聞いているが。

森委員：10年程前か、議員でそういった団体を結成し、野球をしていたことがあるが、あまりよろしくないといったことで取りやめたことがある。議員が率先してできることがあれば良いが。

松井会長：やはり、票を得て就いている議員であるので、発信することにもインパクトがあると思う。

今は2020年に向けて頑張っているが、東京オリンピックが終わってスポーツの熱がトーンダウンしてしまっただけではない。そのために我々はスポーツ振興基本計画を推進し努力している。どうすれば熱が冷めないかといった具体策は分からないが、また皆の考えを聞かせてほしい。他に意見はないか。

森委員：第27頁に総合型地域スポーツクラブの市内3クラブとあるが、どういった組織であるのか。

事務局：「スポーツライフ'91天城」、「児島マリンスポーツクラブ」、「たけのこスポーツ広場」について、会員数、年齢分布、活動内容を説明。

向井副会長：今ある3クラブは倉敷市が作ったものではない。地域が作ったものである。倉敷市が作る必要があるのではないか。

松井会長：新規クラブの設立には補助金制度がある。そのPRを市民に向けてすることも大切である。

事務局：総合型地域スポーツクラブは、「住民が主体となって行うクラブ」である（為房主任）る。補助金の話も出たが、3年間の補助がある。行政は、あくまで市民のスポーツ活動を補助する立場である。また、クラブには「人と人をつなぐ効果」を期待されている。スポーツを通じて、先程出た学生や高齢者も含めて、繋がっていければ良いと思う。

また、事務局の説明の中で出た「スポーツ推進会議」についても、スポーツ関係団体間の意見を取り交わす場所として、「人と人をつなぐ効果」を期待している。その会議の中で、総合型地域スポーツクラブ連絡会から代表で天城の葭野事務局長に出席してもらい、意見交換や情報共有を図りたい。この件については、出席ということで、承認してもらってよろしいか。

松井会長：広く意見を頂戴するというので、推進会議への葭野会長に出席してもらってよろしいか。

各委員：（承認）

3 その他

平成28年倉敷市スポーツ栄誉章・体育章・スポーツ奨励章表彰式の日時案内
（平成29年2月13日（月）15：30～）

4 閉会

閉会あいさつ 倉敷市スポーツ推進審議会 副会長 向井 彰